

慶應義塾大学

SFC研究所



ごあいさつ

オープン・イノベーションを結晶化する 産学官民連結のプラットフォーム

「学問の要は活用に在るのみ。活用なき学問は無学に等し」

(福澤諭吉『学問のすゝめ』)

SFC研究所は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)内外の知の連絡と相互作用によってイノベーションを生み出し、未来を先導する研究プラットフォームです。

SFCは、1990年の開設以来「未来を創るキャンパス」を標榜し、従来の学問領域に拘泥することなく、「問題発見・解決」を中心軸に据え、「知の再編」を先導してきました。多様な専門家が集うキャンパスでは、日々いくつの化学反応が起り、豊潤な実践知が蓄積され、まさに百花繚乱の様相を呈しています。

その中で、1996年に発足したSFC研究所は、産学官民の多彩な訪問研究者とともにプロジェクトを編成し、国内外を問わざる力を結集して、オープン・イノベーションを推進するプラットフォームとして活動してきました。現在のSFC研究所は、ビジョンやテーマごとに、40を超える「ラボラトリ」、20を超える「コンソーシアム」を擁しています。単に産学官民が「つながる」だけでなく、知や資源を適切に再編成し、無いものは創り出し、結晶化された実りある「アウトプット」を送り出す、社会的責任を果たす研究所として、圧倒的な経験と実績を誇っています。生み出された研究成果は、毎年「SFC Open Research Forum (ORF)」にて世に問い、次に取り組むべき新たな研究課題を模索する議論も行われます。

またSFCは、営利非営利を問わず、多彩な起業家を輩出してきました。インキュベーションを

支える制度として、慶應藤沢イノベーションビレッジ (SFC-IV) を擁し、起業家やベンチャー企業にオフィススペースを提供しながら、事業創造のための支援を行っています。「実践を通して21世紀の実学を作り上げる」ことを使命とするSFCにとって、SFC研究所は、研究成果を社会活用につなげるため、あらゆる仕組みづくりに取り組んできた歴史もあるのです。

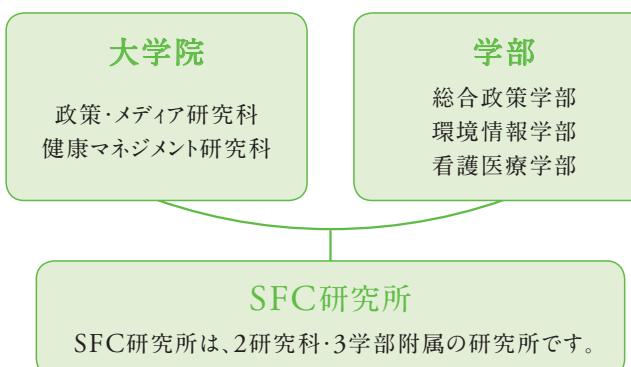
未知の難題が次々に現れる不安定な現代社会では、さまざまな知や力を結集し、「研究」として深く、本質的に物事に取り組むことの社会的役割は過去よりも大きくなっています。SFC研究所は真の未来を先導するために、これからも挑戦を続けていきます。皆様のご理解、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



慶應義塾大学SFC研究所 所長
田中 浩也

組織関連図

湘南藤沢キャンパス(SFC)



研究体制



ラボラトリ

SFC研究所では、2001年から、先端的研究を行う研究グループであるラボラトリを設けています。ラボラトリは同じ研究ミッションを持つ、様々な研究領域の研究者により、横断的、融合的に構成された組織です。国内外の企業や研究所、国、地方公共団体、他大学などの研究交流を促進することを目的としています。
ラボラトリ数: 42件 (2017年10月1日現在)

SFC研究コンソーシアム

大学が中心となって研究テーマを設定し、企業や政府などの外部の複数機関へ共同研究を呼びかけ、「相互利益」を前提に、領域を超えて、大規模な研究課題に取り組む仕組みです。これまでの共同研究に比べ、はるかにスケールが大きく、広範な学問領域にまたがる総合的な研究が可能です。

コンソーシアム数: 25件 (2017年10月1日現在)

補助金／助成金

文部科学省などの公的機関が、高等教育の活性化や国際競争力のある大学づくりを目的として行う支援事業、または、民間団体が、特定分野の問題解決や認知度の向上のために行う支援事業にもとづいて行われる研究です。すでに複数の大型プロジェクトに採択されています。

受託／共同研究

企業や国、地方公共団体などの外部機関と個々に契約し、委託を受けて、あるいは共同で、研究を行う研究形態です。研究内容は、委託者の要望に沿って決定され、個々のニーズに合った研究を行うことが可能です。

SFCの研究活動

多彩な研究領域

SFC研究所には42件のラボラトリ、
25件のコンソーシアムが設置されています。
(2017年10月1日現在)



Pick Up

AOI・ラボ

代表: 神成 淳司 (環境情報学部准教授)



AOI-PARC (Agri Open Innovation Practical and Applied Research Center) は2017年に静岡県に設立された農業の生産性革新に取り組むための拠点です。AOI・ラボはその拠点における慶應義塾の中核研究組織です。

そこで、ICT(Information and Communication Technology)、次世代栽培システム、最先端ゲノムテクノロジーを活用して、安心安全、低コスト及び高機能な農産物の育種や効率的な生産手法の確立を進めています。

また、健康・長寿にも注目し、高機能型食品等開発につながる様々な農産物由来機能成分の科学的実証にも取り組んでいます。

Pick Up

ドローン社会共創コンソーシアム

代表: 古谷 知之 (総合政策学部教授)



産官学連携によるドローン社会の創成を目的として、次のような研究教育を推進することを目的としています。

1. ドローンを活用した社会課題の解決(医療・健康・環境・防災・減災・土木・建築・農業等)

2. ドローンビジネス(産学官連携)
3. ドローン関連の制度設計(規制緩和、保険制度、安全保障)

4. ドローンの応用技術開発
5. ドローン教育(大学院・学部での講義・演習科目の設置)

これらにより、SFCを日本における国際的なドローン研究教育拠点として形成することを目指します。

Pick Up

看護ベストプラクティス研究開発・ラボ

代表: 武田 祐子 (看護医学部教授)



このラボラトリでは、最善の看護実践(ベスト・プラクティス)に不可欠である

1. 看護実践の質保証(Quality)を推進する実践研究開発
2. 個別化・最適化した看護実践を現場に浸透・波及(Utility)できる看護リーダーの養成
3. 事者の価値を尊重する倫理的看護実践の醸成(Explore)を目指しています。

産官学連携

SFC Open Research Forum (ORF)



SFCでは、その研究成果の社会への還元を自らが果たすべき重要な社会的責任の一端と考え、研究活動成果を広く社会に公開する場として、「SFC Open Research Forum」を毎年開催しています。ここでは、SFCで実施している様々な研究プロジェクトの現状と将来計画を、展示、セッションなどを通じて、産業界・国・地方公共団体・学会等に広く紹介しています。



<http://orf.sfc.keio.ac.jp/>

ORF2016の様子

SFC Open Research Forum (ORF) 2016は、テーマを「かえる。」と掲げ、11月18日(金)、19日(土)の2日間、東京ミッドタウンにて開催し、5,921名の来場者にお越しいただきました。B1Fのホールでは、展示90団体、ワークショップ6団体の計96団体が出展し、4Fのカンファレンスでは、各界からさまざまなゲストをお招きし、45のセッションを行いました。ORF 2016は、21社の企業にご協賛いただき、協賛企業によるスポンサーセッションを7セッション開催しました。



展示「慶應看護100年記念事業」

慶應義塾における看護教育は、平成30年（2018年）に100年を迎えます。これを記念して、大正7年（1918年）の医学科付属看護婦養成所設立に始まる「慶應義塾の看護の歩み」と時代とともに変化してきた看護白衣などの変遷を「服装史」としてまとめました。この展示では、「慶應看護のあゆみ」と「服装史」のパネル展示を通して、時代を経ても変わらぬ慶應看護の真髄とはなにかを伝え、時代を先導し発展し続けるために慶應看護が目指す次の100年の姿を考える機会となりました。



ベンチャー・インキュベーション支援



慶應藤沢イノベーションビル（SFC-IV）

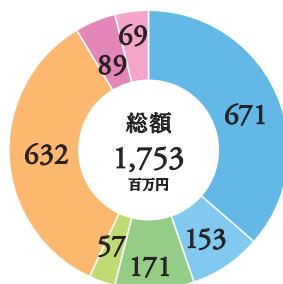
慶應義塾は、中小企業基盤整備機構、神奈川県、藤沢市と共同で、新事業の創出・起業に取り組む方を支援する場として、インキュベーション施設を開設しました。SFCの持つIT、バイオテクノロジー、環境調和技術、看護医療、健康マネジメント、都市デザイン、社会制度設計等の知見を活用し、かつ慶應義塾大学と連携して起業を目指す方を対象とした賃貸オフィスです。



<http://www.smrj.go.jp/incubation/sfc-iv/>

データから見る研究活動

2016年度SFC研究所 研究資金



2016年度SFC研究所 研究プロジェクト件数



- 国・政府および
関連機関との契約
- 科研費
- 地方公共団体および
関連機関との契約
- コンソーシアムに
おける契約
- 企業等との契約
- 指定寄付
- 学内助成

慶應義塾大学SFC研究所

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322



www.kri.sfc.keio.ac.jp

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

Tel: 0466-49-3436
Fax: 0466-49-3594
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp

小田急江ノ島線／相鉄いずみ野線／横浜市営地下鉄ブルーライン：湘南台駅下車
神奈中バス「慶應大学行」約15分
JR東海道本線：辻堂駅下車
神奈中バス「慶應大学行」約25分

